

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業 「学習成果発表の場事業」

「歴史講演会 邪馬台国はどこか？」を開催しました。

令和2年10月4日（日）、講師に浅井能延さんをお迎えして学習成果発表の場事業「歴史講演会 邪馬台国はどこか？」と題し講座を開催しました。例年の浅井さんの講座は6月頃の開講でありましたが、今年度は新型コロナウイルス感染対策のためこの時期の実施となりました。その影響か、昨年度と比較し若干減少し、65名の受講でした。

浅井さんは、古代史に興味を持ち30年にわたり独自に研究をされ、全国の遺跡や博物館を訪れたり著名な学者の講演を聴きに行かれたりしています。これまで幾度か、それらより導き出される考察をまなびCANで講演されました。そして歴史の研究をして来られた集大成として、今回の講義テーマである邪馬台国の研究を含めた本を執筆、出版されました。

訪ねた遺跡や史跡、調査された文献を基にパワーポイントを利用して分かり易く、また興味深く解説されました。「邪馬台国はどこか？ 九州説、畿内説を検証する」をメインテーマとし、講演の冒頭に浅井さんが支持する説を明らかにして講義が進められました。邪馬台国の場所を特定するために多くの文献を探され、また各地の古墳や遺跡を訪ねました。そして推考を重ねた結果、「邪馬台国は九州にあった」との考えに至ったと説明されました。そこに至るには「何を優先、信頼するか？」を自問され、次のように決められました。①金、石、文 ②遺跡・遺物 ③文献 1) 中国の文献 2) 朝鮮の文献 3) 日本の文献 という順番にて考察したとのことでした。



まずは、邪馬台国が存在したか否か、中国の文献より紐解き、「金印」等の遺物、遺跡により存在したことから始められました。畿内説の根拠とされている遺跡や遺物、文献を挙げられ、それに対して各々根拠となりえないことを説明されました。非常に分かり易く、丁寧に話されたので、うなずく受講者も多くみられました。古代史に詳しくない人も多く受講されているので、解説に工夫されているのが分かりました。

畿内説に疑義を提示し、続いて九州説の裏付けとなる文献や史跡を説明されました。そして、次のような結論に至ったそうです。

結論（・出雲や難波や吉備にも大国があった　・大和にも大国があった　・邪馬台国は北部九州にあった　・崇神天皇以降に大和にあったヤマト王朝は拡大した　・倭の五王迄にヤマト王朝は確立した　・親魏倭王金印が出た所が邪馬台国）

昨年続き浅井さんには、歴史講演会を開講して頂きました。受講者の多くは、歴史への興味とそれに対するアプローチの方法の多様性、多岐にわたる資料の見極めの難しさを感じたのではないかと思います。また講義の中でユニークであったのは香川にも古墳を始めとするいくつかの遺跡があるが、他府県でみられるような博物館や歴史館、公園などの観光資源として活用がされていない、非常に残念でありもったいない、との発言がありました。観光客の誘致の一助になるし、また新たな遺跡、遺物の発見があるかもしれません。